

茨城県の乳用牛群における牛ウイルス性下痢ウイルス 持続感染牛の浸潤状況の推移

赤上正貴^{1),2)†} 石田祐貴¹⁾ 鈴木雅美^{1),3)} 藤井勇紀^{1),4)}
川西菜穂子¹⁾ 高橋覚志¹⁾

- 1) 茨城県県北家畜保健衛生所 (〒310-0002 水戸市中河内町 966-1)
- 2) 茨城県県西家畜保健衛生所 (〒300-4516 筑西市新井新田 42-4)
- 3) 茨城県県南家畜保健衛生所 (〒300-0051 土浦市真鍋 5-17-26)
- 4) 茨城県農林水産部畜産課 (〒310-0855 水戸市笠原町 978-6)

(2023年11月27日受付・2024年1月24日受理・2024年3月14日公開)

要 約

茨城県における酪農場のバルク乳を用いて、牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV) の持続感染 (PI) 牛を飼養する農場を特定し、乳用牛群からのPI牛の摘発検査を2018～2023年にかけて実施した。バルク乳検体を用いた抗体検査では、延べ1,713戸中69戸のバルク乳が陽性を示した。バルク乳が抗体陽性を示した69戸中7戸の追跡調査で13頭のPI牛を摘発した。摘発したPI牛はすべて子牛か育成牛であり泌乳牛は含まれなかったため、バルク乳を合乳した集乳車合乳527検体からBVDV遺伝子は検出されなかった。茨城県では、バルク乳及び集乳車合乳からBVDV抗体または遺伝子を検出するスクリーニング法によりBVDVの感染源となるPI牛を可能な限り若齢のうちに摘発淘汰することにより効率的にBVDVのまん延を防止できると考えられた。

——キーワード：牛ウイルス性下痢ウイルス、バルク乳、持続感染牛。



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/3/77_e51/_article/-char/ja

-----日獣会誌 77, e51～e56 (2024)